令和7年度　かほく市立外日角小学校　学校評価（最終報告）

重点目標	取組内容		主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	肯定的結果	達成度	結果の考察	今後の方針	学校関係者評価
1 確かな学力の育成	ア	授業力・指導力の向上★	学習指導部	子供主体の授業を目指して、重点を「主体的に自己決定し、学びが深まる工夫」とし、3つの視点（児童が①見通しをもって学び方を選択するための工夫②自分の考えを深めたり、広めたりするための工夫③学び方や変容を振り返るための工夫）から授業づくりをしていく。	【成果指標】 （教）3つの視点の中から1つ以上を取り入れた授業を行っている。 （児）授業が分かる。	一日の授業で， A：週４回以上できている B：週３回以上できている C：週２回以上できている D：ほとんどできていない	児童・教員評価 A＋Bが90%未満の場合，学年研やブロック研で取組を検討する。	88% （教） 94.8% （児）	B	児童のA評価と教員の肯定的評価が前期よりも7%高くなっている。	見通し、交流の仕方などの工夫を行ってきた。また、月目標の中で、「自分の言葉でまとめや振り返りを書く」指導も行ってきた。その成果が少しずつ出てきたものと思われる。来年度も、重点は変えずに視点①は継続して、視点②、視点③を中心に置いて取り組んでいく。	・重点の達成のためには、今後も視点①を重視して取り組むことが大切だと思う。まず見通しをもつこと、選択できること。 ・児童と教師の関係、学習指導と生徒指導の両方の筋が通っていると、学びも深まる。 ・ペア・グループ学習で分かることの楽しさを味わっていることがよい。 ・聞く姿勢の弱い児童が見られるという現状から、肯定的評価を高めた（児童94.3%、教師100%）ことは指導の賜物だと思われる。 ・読書離れと言われて久しいが、素晴らしい図書館があるので、活用してほしい。 ・返却時間の短縮により、本を選ぶ時間を確保する工夫は素晴らしい。 ・週1でもよいので「読書デー」を作り、朝学習にみんなで読書をする、隙間時間にはクロームブックではなく読書を勧める等、本を読む時間を確保するとよいのではないか。
	イ	学習規律の定着，基礎基本の定着・習熟	学習指導部	教師や他の児童の話を最後まで聞こうとする姿勢の弱い児童が見られる。	【努力指標】 話す人の方を見て最後まで話を聞いている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	児童・教員評価 A＋Bが80%未満の場合，取組の検討・改善をする。	100% （教） 94.3% （児）	A	児童・教員共に肯定的評価は高い。児童は、前期よりも2.3%上がった。	児童と教師の関係、学習指導と生徒指導の一体化も大きく関係していると考えられる。来年度も日頃から出来ている児童を認めつつ、コツコツと継続して指導をしていく。	
	ウ	読書活動の充実	学習指導部	低学年は，図書館に楽しんで通う姿が見られるが，高学年になると進んで読書をする児童が少なくなる傾向がある。	【成果指標】 週に１回図書館を利用する児童が80%以上である。	A：８０%以上の児童があてはまる B：７０%以上の児童があてはまる C：６０%以上の児童があてはまる D：５０%以上の児童があてはまる	児童・教員評価 Aが80%以下の場合，取組の検討・改善をする。	85% （教） 77.5% （児）	B	図書館を利用する児童の肯定的評価は前期よりも4.9%下がった。教員の促しが100%ではない。	低学年の児童は大体週1回以上は図書館に通えているが、中・高学年は移動教室、委員会などの仕事で通いにくいものと思われる。学年が上がるほど、物理的に図書館に行く時間・読書する時間を確保することが必要である。	
2 生徒指導の充実	ア	基本的生活習慣の徹底	生徒指導部	玄関での朝のあいさつは少しずつ元気になっているが，安全ボランティアや来校者へのあいさつを進んでできる児童が少ない。	【努力指標】 自分から進んでいいあいさつをしている。	A：９０%以上いる B：８０%以上いる C：７０%以上いる D：７０%未満いる	達成度がB以下の場合，取組の検討・改善をする。	89.9% （児） 83.4% （保）	B	児童の肯定的評価は前期より若干下がっている。保護者はほぼ同じ。	1月の生活目標とタイアップし、全校にあいさつをする意義について周知する。自主的にあいさつ運動に参加する下級生や、あいさつが良い児童がいることを全校に広め、価値づける。	・読み聞かせボランティアで学校に行くと、よく挨拶してくれる。 ・グッドマナーの際の挨拶は元気がよく、感心する。 ・報道等を見ていると、全国的にいじめというより、暴力的で事件化している感じがする。 ・いじめやヤングケアラー等デリケートな問題が増えている。見逃しなどないように対応してほしい。どんな小さな訴えも認知し、対応し、見守ってくれているのはありがたい。安心・安全につながっている。 ・「学校が楽しい」と思う児童が95%もいて、素晴らしい。校内支援センター（SSR）の活用等組織的に取り組んできたことが功を奏していると思う。 ・かほく市は不登校が増えているのが課題である。各校にSSRがあり、登校しづらい子の居場所づくりを進めていることがわかった。SSRを利用しながら教室へ行ける時は行く、「すまいる」を利用するなど選択肢があり、ありがたい。学習の保障が課題とのことなので、是非加配を要望してほしい。
	イ	いじめ・不登校の組織的対応の徹底★	生徒指導部	学校生活で気になることや児童同士でのトラブルなどを管理職・学年間・保護者へ丁寧に報告・連絡している。 気になることは必ず管理職・学年間・保護者へ報告・連絡することを継続する。	【努力指標】 児童の気になることに対して管理職・学年間での情報共有，また保護者への電話，面談，訪問など速やかな対応を行っている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	教員評価 A＋Bが90%未満の場合，取組の検討・改善をする。	100% （教）	A	教員の肯定的評価が100%になったが、A評価は3%下がった。	今年度、組織的な対応に対する職員の意識が高まっており、重大事案に発展する前に対応できている。本校ではここ数年、3学期に大きな事案が発生しているため、今一度職員に周知し、組織的な対応を風土化していく。	
	ウ	校内支援センターの有効活用 児童にとって安心・安全な居場所づくり★	生徒指導部	自己肯定感が低く，学校が楽しくない（C,D）と感じている児童が約11%いる。	【満足度指標】 児童が学校が楽しいと感じている。	「学校は楽しいですか（楽しいと言っている）」に対して，AもしくはBと答えた児童・保護者が A：９０%以上いる B：８５%以上いる C：８０%以上いる D：８０%未満いる	達成度がB以下の場合，取組の検討・改善をする。	95.0% （児） 93.8% （保）	A	児童・保護者のA評価が前期よりも高くなった。	積極的な生徒指導や教育相談、個々に合った環境の提供などが成果として現れた。今後も保護者と協力し、児童一人一人がいきいきと活動し、力を発揮できる環境づくりに努める。	
3 豊な心の育成	ア	道徳教育の充実	学習指導部	学校行事や体験活動等との関連を図ったり，道徳の教科書をもとに，いしかわ版道徳教材やGTを活用したりして，個々の児童が，思いやりの心を持ったり，夢や目標を持ったりするように，共通実践を蓄積する必要がある。また，規範意識の向上も必要である。	【努力指標】 中心発問の吟味と道徳掲示の蓄積をしていく。	A：毎時間すべてできている B：おおむねできている C：あまりできていない D：全くできていない	教員評価 A＋Bが100%未満の場合，授業のあり方について検討・改善をする。	100% （教）	A	教員のA評価が低い。	2学期に道徳の研究授業も行われ、発問構成やどんな発問をするとよいのかを意識して授業づくりができたのではないかと考える。準備した掲示物の活用も学びの足跡となるので、継続して取り組む。	・道徳の授業を授業参観で見た。地域や保護者に公開してくれてありがたい。 ・一人っ子が多くなっている中、グループ活動を通して相手を思いやる心を育んだり、リーダー的な役割を経験したりすることは大切だと思う。無理のないように継続してほしい。
	イ	特別活動の充実	特別活動部	なかよしグループ活動には，楽しく参加しているが，協力し合ったり，助け合ったりする関係が十分にできているとは言えない。	【努力指標】 なかよしグループ活動に自分から進んで活動に参加し，楽しむことができる。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	児童評価 A＋Bが80%未満の場合，取組の検討・改善をする。	93.2% （児）	A	児童の肯定的評価が前期よりも下がっている。A評価が3.4%低くなっている。	なかよしグループでの活動がなかなかできなかったため，児童の中での充実感が感じられなかったと考える。3学期にはなかよし遊びを中心に活動を増やしていく。	

重点目標	具体的取組		主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	肯定的結果	達成度	結果の考察	今後の方針	学校関係者評価
4 健康・安全教育の推進	ア	体力の向上★	特別活動部	休憩時間に体を動かしている児童は多いが，運動能力調査の結果に反映されるまでには至っていない。また，運動を好まない児童もいる。	【成果指標】 マラソンやなわとびチャレンジカード等に意欲的に取り組み，体力・運動能力の向上が見られる。	「進んで体を動かしていますか」に対して，AもしくはBと答えた児童が A：９０％以上いる B：７０％以上いる C：５０％以上いる D：５０％未満いる	達成度がB以下の場合，取組の検討・改善をする。	95% （教） 92.1% （児）	A	児童の肯定的評価は前期よりも上がったが、A評価は下がった。 教員の肯定的評価も下がった。	2学期には体育的行事も多く、たくさんの児童が体を動かす場面があったが、「進んで」ということではなかったと考えられる。寒い時期でも楽しく体を動かせるように、体育の授業でたくさんの場を作ったり、音楽をかけて運動したりするように職員に周知していく。	・運動系の習い事をしていない子は、学校での運動だけが身体を動かす機会という子もいると思う。定期的に運動を取り入れた活動があったらいいと思う。 ・ケガの察知能力が身に付く運動や遊び、ケガ予防の知識の獲得も普段から大切だと思う。 ・子供たちの登校時刻が昨年より10分遅くなった。イイダの交差点など混みあってはいるが、流れている。危ないというほどではない。また、学校が開くのを長く待っている子もそんなにいない。子供はちょうどよい時間を見計らって家を出ている。これからも安心・安全に努めてほしい。 ・イイダ交差点に保護者の見守りがない日がある。10分見守りが遅くなった関係で、保護者が出にくくなったのかとも思う。 ・下校後、キックボード等で遊ぶ子が少なくなっているように思う。 ・交通ルール等を守っている割合が90%でA評価というのは、本校だと100人いて7～8人守れていないことにならないか。安全は命に関わることなので、A評価の割合をもっと高く設定したらよい。
	イ	危険予測能力，事故回避能力の育成	保健安全指導部	登校時の交差点の渡り方や下校時の道路の歩き方に課題が見られる。特に低学年児童での怪我が多い。	【成果指標】 交通ルールを守って安全に怪我無く道路を歩くことができる。また，非常時において避難の仕方が分かる。	「歩き方や自転車の乗り方，災害時の行動に気を付けていますか（交通事故や災害から身を守る習慣が身についている）」に対して，AもしくはBと答えた児童・保護者が A：９０％以上いる B：８０％以上いる C：７０％以上いる D：７０％未満いる	達成度がC以下の場合，取組の検討・改善をする。	93.5% （児） 93.8% （保）	A	児童・保護者共に前期とほぼ同じで、肯定的評価が90%をこえている。	A評価であるが、登下校中に走ったり、交差点の横断で危険な渡り方が見られたりするなど課題は残るため、引き続き登下校指導の充実が必要である。また、避難訓練や不審者対応訓練でもより安全な体制をつくるため、緊急時に各自がスムーズに動けるよう提案をブラッシュアップさせていく。	
5 教職員の人材育成・多忙化改善	ア	学校運営の参画意識を高める	管理職	昨年度までは，一人に業務が集中することもあったが，今年度より，業務を細分化し，できるだけ一人一役となるよう担当を割り振り自覚をもって校務の遂行を心がけられるようにする。	【努力指標】 自分の担当に見通しをもち，提案・運営を積極的に行う。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	教員評価 A＋Bが90%未満の場合，取組の検討・改善をする。	100% （教）	A	教員の肯定的評価が100%。A評価も13%上がった。	各々が業務にも慣れ、同僚性も高まっているため、担当業務を相談しつつ評価改善しながら推進できるようになってきた。 業務の平準化については難しい面もあるが、業務改善の視点を持ちながら取り組んでいく。	・創立150周年記念行事では、職員一丸となって取り組んだ成果が、当日の児童の生き生きとした姿に表れていた。全員で同じ方向を目指すことの大切さを感じた。
	イ	研修の充実 若手主体で取り組む若プロ	教務部	担当としての研修会や郡市教育課程研修会の参加のみになっている教職員が見られる。	【成果指標】 主体的に若プロ等の研修会に参加する。 主体的に相互授業参観に参加する。	A：全て参観できた B：学期に２回参観できた C：学期に１回参観できた D：参観できなかった	教員評価 A＋Bが80%未満の場合，取組の検討・改善をする。	88% （教）	A	肯定的評価は高いが、C・D評価が12%（3人）いる。	2学期は，若手がベテランの授業を参観できるように計画を早めに立て、C4thや終礼で周知していくことができた。 3学期は，なわとび実技研修等，実践的な研修を企画していく。	・教師が生き生きと実技を児童と行うのはとても良いと思う。 ・子供が下校してからしか落ち着いて業務に取り掛かれない現状があると思う。少しでも早く帰宅できるようになればいい。
	ウ	教職員が担うべき業務に専念できる環境を確保 教材研究や学年会の時間を確保	管理職	超過勤務はやむをえないという意識から，ワークライフバランスや適正な勤務時間のさらなる意識向上が必要である。	【努力指標】 週２回以上１９時００分までに退校している。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	教員評価 A＋Bが90%未満の場合，取組の検討・改善をする。	85% （教）	B	A評価は高いものの、C・D評価が15%（4人）いる。D評価は減ったが、0%ではない。	85%の職員は、19時までに退校できている。 週2回以上19時前退校できていない職員が固定化しているため、決められた時間内に業務を効率的に進めることの重要性を伝えると共に、毎週水曜日は確実に定時退校できるように自己調整を呼び掛ける。	・19時までに退校することばかりがクローズアップされているが、19時までに帰るために早朝から勤務して、実労働時間が長い先生もいるのではないか。 ・先生も、家庭で家族で過ごせる時間が多くなることを願う。
6 学校・家庭・地域、学校種間の連携強化	ア イ	架け橋期の目標の具現化と小中接続を意識した指導の推進★	教務部	架け橋期では，幼保小連絡会やスタートカリキュラムを活用してスムーズに学校に慣れることができている。 小中連携では、中学校の規律等のルールに戸惑う生徒も見られる。	【努力指標】 幼保小連絡会，スタートカリキュラム，小中連絡会での情報共有を活かして指導にあたる。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	教員評価 A＋Bが80%未満の場合，取組の検討・改善をする。	89% （教）	B	肯定的評価が11%上がった。C評価が11%（3人）いる。	1年生は、生活科「あきとなかよし」の単元で，こども園と密に連携し交流することができていた。6年生も2月の中学校体験を通して，中1ギャップにならないように取り組んでいく。2～5年生は，キャリア・パスポート等を活用し，縦のつながりを意識させていく。	・中学では、学習の方法が大きく変化するので、小6後半から中学校での学習を意識した家庭学習をすべきだと思う。繰り返しや積み重ねの重要性を伝えてほしい。 ・幼小や小中の交流や体験で、小学校や中学校に進学する不安が希望になればいいと思う。
	ウ	各種便りやホームページ等での情報発信の充実	情報担当	様子や取組を更新している学年と更新していない学年の差がある。	【成果指標】 定期的にホームページを更新する。	A：毎週更新している B：隔週で更新している C：月1回で更新している D：一月以上更新していない	達成度がA以下の場合，取組の検討・改善をする。	93% （教）	A	A評価は26%上がった。D評価がなくなった。	ほとんどの学年がホームページを毎週更新することができている。継続できるよう声掛けしていく。	・HPが分かりやすくてよい。
7 カリマネ	ア	カリマネの充実	教務部	教科横断の関連単元を学期に１つ以上設定し、確実に取り組むようにしている。	【努力指標】 学年会でカリマネの成果と課題について話し合い、教科横断を学期に１回以上、取り組む。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	教員評価 Aが100%未満の場合，取組の検討・改善をする。	100% （教）	A	肯定的評価は100%だが、A評価が26%下がった。	学年会で毎月話し合うことでPDCAサイクルを回すことができた。3学期は，資質・能力の質を高めるような教育課程の編成を行っていきたい。	